

各 位

浦安鐵鋼団地協同組合
景況実感調査委員会

浦安鐵鋼団地景況実感調査結果表
(2025年08月分)

ご協力ありがとうございました。2025年8月分の結果をお送りいたします。よろしくご査収ください。

調査対象 141 回答 129 回答率 91.5%

	前 年 同 月 比					
調査項目	10%以上 増加・上昇・好況	やや 増加・上昇・好況	横這い・平常	やや 減少・下降・不況	10%以上 減少・下降・不況	計
売上数量	4社	10社	43社	31社	41社	129社
	3.1%	7.8%	33.3%	24.0%	31.8%	
	(8.3)	(14.4)	(34.8)	(25.0)	(17.4)	
売上高	6社	8社	30社	37社	48社	129社
	4.7%	6.2%	23.3%	28.7%	37.2%	
	(9.0)	(9.8)	(33.8)	(27.8)	(19.5)	
在庫数量	6社	15社	60社	26社	16社	123社
	4.9%	12.2%	48.8%	21.1%	13.0%	
	(6.4)	(12.0)	(44.8)	(22.4)	(14.4)	
販売単価	3社	10社	51社	53社	11社	128社
	2.3%	7.8%	39.8%	41.4%	8.6%	
	(0.8)	(9.3)	(39.5)	(41.9)	(8.5)	
収益状況 (粗利)	5社	13社	39社	41社	30社	128社
	3.9%	10.2%	30.5%	32.0%	23.4%	
	(7.8)	(9.3)	(45.0)	(23.3)	(14.7)	
稼働率 (生産・加工設備)	2社	7社	47社	31社	22社	109社
	1.8%	6.4%	43.1%	28.4%	20.2%	
	(3.5)	(14.0)	(44.7)	(32.5)	(5.3)	
入出庫の トラック台数	2社	8社	48社	42社	25社	125社
	1.6%	6.4%	38.4%	33.6%	20.0%	
	(3.1)	(10.1)	(49.6)	(31.0)	(6.2)	
現在の 景況感	0社	3社	39社	50社	36社	128社
	0.0%	2.3%	30.5%	39.1%	28.1%	
	(0.8)	(3.8)	(32.8)	(37.4)	(25.2)	
3ヶ月後の 景況予測	0社	13社	81社	27社	7社	128社
	0.0%	10.2%	63.3%	21.1%	5.5%	
	(0.0)	(6.1)	(69.5)	(17.6)	(6.9)	
特記事項						

注 ①調査対象会社数は浦安に事業所の無い会社（不在地主など）は除外してあります
②()内の数字は前月のパーセントです
③結果表は全品種の動向として集計し、品種別の要因を取り上げる必要がある場合は
特記事項欄に別途記載いたします
④本調査の宛先等の変更は、浦安鐵鋼団地協同組合事務局までご連絡ください
事務局 TEL：047-350-5311 FAX：047-350-5316

景況実感調査(2025年8月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

【お断り】寄せられたコメントは、各社担当者の現場の声です。個々の会社固有の状況にもとづくものも多々あります。業界全体及び浦安鉄鋼団地全体の見解とは必ずしも一致しませんので、お含み置き願います。また、不穏当な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 長期休暇もあり、前月比は全て下落。前年比でも数字は落ちた。お盆明け以降は一部で問い合わせが増えたように感じる。下期に向け、良い切り替えができる9月にしたい。
- ② 8月の業績は、前年同月比で微減となった。これは昨年と比べて稼働日数が少なかった影響によるもので、日当たりの実績ではほぼ同水準を維持している。一方で、鋼材価格は下落傾向が続いており、依然として底打ちの兆しは見られない。こうした価格変動に左右されない経営を目指したい。
- ③ 販売価格は下げ止まらず、コスト上昇分を価格転嫁したくても全く受け入れられず、収益は悪化するばかり。AD調査が始まったが、好転する見込みについては不透明。

中板

- ① 建産機、建築関連で需要低迷が続いており低調。店売りもお盆前後に盛り上がりも見られず、各社当用買いの状況に変わりはない。市況は引き続き弱含みでジリ安傾向。

厚板

- ① <全体感>各分野において需要は低調、仕事量は少ない。紐付分野では変わらず関税問題による輸出の低調に加え、国内においても設備投資意欲は低く、生産の見直しも出始めている。店売分野も同様、切板需要が少なく荷動きは鈍い。
<分野別>建産機分野においては、期初段階で微増予定であった下期の計画見直しが始まっている。特に海外需要が不調で、米国関税が幅広く影響しているものと思われる。店売分野においても引合いは少なく、メーカーの遅れによる当用買いが中心。また、輸入材や電炉の安値により切板価格はジリ安、物量によって安値も散見される。
- ② 建設機械は輸出向けの不透明感から、減産も顕著で売上も減少している。店売り関連は引合いもなく、売上も減少している。

一般形鋼・H形鋼

- ① 8月は稼働が少なく、出荷は落ちたが日当たりは横ばい。メーカー生産の低位が続く中、特にH形鋼の需要はマーケットシフトが継続されていると認識。市中在庫が少なく、歯抜けも目立ってきており引き締まった状態にある。先行きの不透明感からか、相変わらず安値が聞こえる。品種によって聞こえる安値は明らかに赤字であり、情報精度を上げ、揺さぶりに惑わされず採算を確保する。

- ② 調査項目は前年同月比ほぼ横ばい。営業日数は前年より1日少ない16日なので好転したのか？今年5月以降続く売り上げ低迷は顧客の受注状況から推して払拭できず、市況の立ち直り機運あるも無理ではないか。秋需は死語となりつつある。
- ③ 需要は停滞、低迷しており、市場価格は弱基調が続いている。ただ、H形鋼メーカーは現在の販売価格では採算が合わないため、値上げする可能性が出てきている。

異形棒鋼

- ① 需要の減少、酷暑による稼働低下で荷動きは大きく落ち込んでいるが、メーカーによる実行販価の値上げに期待し、市況を大事にしていきたい。
- ② 状況は変わらず、荷動きは低位横ばい。現状維持に努めるしかない。
- ③ 8月は稼働が低く最低値だが、日当りでは同水準で、9月も同じ動きを見込む。価格はベースメーカーが維持しているため、少し下がり横ばいだが、まとまると弱い。

平鋼

- ① 8月の倉出し出荷は7月比で日割りは横ばいで推移。月量は夏季休暇もあり、稼働日数が少ないので7月比で15%位のダウンとなった。社内加工は、7月に受注した注残もあり忙しかったが、8月の新規受注が少なく、9月中旬頃までの加工残しか残っていない。10月以降の物件情報を収集して、受注に繋がるように営業をしていく。
- ② 8月盆明け以降も環境が悪く荷動きは低迷。価格は7月後半に下がったが、ジリ安はいったん止まったように思える。加工分野は最悪期を脱したが、目立って増えてはいない。

軽量形鋼

- ① 年内横ばい見込み。販売単価は流動的である。
- ② 継続中の大型物件の工事が進み数量増加。大型物件は好調だが、中小工事店は低調のため、値段の下げ合いが始まりつつあり注視が必要。

鋼管

- ① 前月に比べればやや日割り出荷量は上がってきているものの、不況感は変わらない。9月以降も前年より悪くなると予想される。

構造用鋼

- ① 需要は、自動車関連で米国との関税率が決着したが、荷動きは鈍い状態が続いている。建機、産機、工作機械も、荷動きがさえない。店売も同様に低位から抜けられない状況。在庫は出荷見合いで適正。価格は物件対応で安値も散見されるが、中心相場は維持されている状況。

磨棒鋼

- ① 自動車向けは一部の向け先を除き調整局面が続いている。建機向けも大きな動きなく低調のまま。米相互関税の決着により、今後方向性が明確になれば、安定した出荷が戻ってくるのでは、と期待。

ステンレス

- ① AD調査で市況は反転、上昇の兆しが見える。ただし、ユーザーの需要が上がっている訳ではなく、製造業への影響を懸念している。

その他

<敷鉄板リース>

- ① 敷鉄板リースに関しては、建築物件を主体にこの時期としては高い稼働率となっている。

<スクラップ>

- ① 先月と同様に状況は変わらず、8月は夏季休業もあり稼働日数が減少したことに加え、経済活動停滞によりスクラップ発生量が伸び悩んでいる。市況面では、メーカーのスクラップ購買意欲が低下し、値下げ発表もあり弱含みで推移している。海外向け需要があることが下支えしている状況。

<金属表面処理>

- ① 8月は稼働日が減少するも、山積み通りの操業であった。物件物、紐付きも計画通りで、スポットも前月と同水準の扱い量になった。9月も同様に紐付きを中心に高操業となる見込み。